

週間感染症情報

2019年6-7週 2019年2月4日より2019年2月17日まで

6週 7週

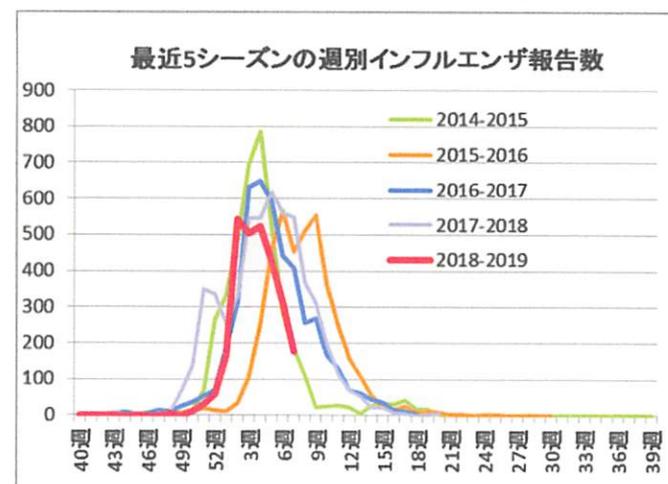
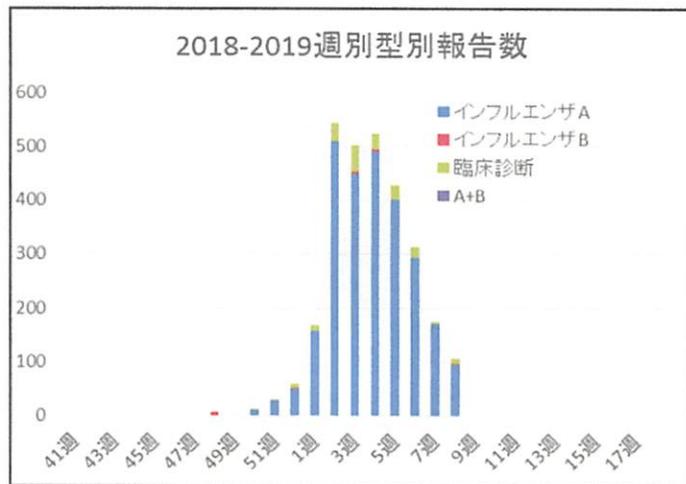
麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)		
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	22	10
手足口病		1
ヘルパンギーナ		
伝染性紅斑	1	
感染性胃腸炎	80	51
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹		1
伝染性膿痂疹(とびひ)		2
ヘルペス性口内炎		1
アデノウイルス感染症	2	
RSウイルス感染症	3	2
マイコプラズマ感染症		
インフルエンザ(臨床診断含む)	314	173
インフルエンザA	293	169
インフルエンザB		
ヒトメタニューモウイルス		

小児科外来も感染症は少なくなり、花粉症や喘息などのアレルギー疾患が増えています。また、年度末でアレルギー連絡書など書類書きが忙しいです。

遅くなりましたが6週と7週の報告です。下のグラフの様に、12月中旬より始まったインフルエンザAの報告は、2週～4週にかけてピークとなり、5週より減少しています。心配されたインフルエンザBの報告数は15例(0.5%)と少なく、今後も大きな流行となることはないと思われます。8週の報告数(2/21)までに A 95例 B 2例 臨床診断 10例 計107例で、7週と同じか減少しています。春休みに入るまでは行事も多く、感染の機会があります。今週になり学級閉鎖もでています。流行は終わったと安心せずに、感染予防に努めて下さい。

インフルエンザ一色から、溶連菌感染症、ノロウイルスによると思われるウイルス性胃腸炎のなど他の感染症の報告が増えてきました。

全国的に麻疹の報告が増えています。小児の麻疹患者を出さないために、1歳になったらすぐにMR(麻しん・風しん)ワクチン接種を、年長児は2回目の接種を忘れずに受けましょう。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> 変更になりました。)